

カレッジボード、2015年の高等教育における学資援助及び学費に関する傾向をまとめた
報告書を発表（11月4日）

カレッジボード（College Board）は11月4日、2015年の高等教育における学資援助と学費の現状に関する報告書「2015年学資援助の傾向（Trends in Student Aid 2015）」と「2015年学費の傾向（Trends in College Pricing 2015）」を発表した。これによると、2014-2015学年度の大学授業料・手数料は、過去2年間とほぼ同じ割合で継続して緩やかに増加する一方で、学資援助はほぼ変化がなく、学生1人あたりの学資ローン利用額は4年連続で減少し、2020-11学年度と比較すると10%減であることが明らかにされた。また、学生による正味支払額は、2005-2006学年度～2010-2011学年度の間は全セクタにおいて減少していたが、再び上昇する傾向にあるという。それでも、2015-16学年度の公立2年制大学フルタイム学生の正味授業料・手数料は、10年前よりも平均1,140ドル低く、正味授業料・手数料・滞在費合計は同430ドル減とのことである。

なお、「2015年学資援助の傾向」は

<<http://trends.collegeboard.org/sites/default/files/trends-student-aid-web-final-508-2.pdf>>

から、「2015年学費の傾向」は

<<http://trends.collegeboard.org/sites/default/files/trends-college-pricing-web-final-508-2.pdf>>から、それぞれダウンロード可能。

College Board, College Board Trends in Higher Education Reports: College Prices Continue Moderate Rise, and Student Aid Remains Stable, Leading to Increased Net Prices

<https://www.collegeboard.org/releases/2015/college-board-trends-higher-education-reports-college-prices-moderate-rise-student-aid-stable-increased-net-prices>